

田中家通信



全慶匠 全慶匠石材

株式会社 田中家石材

VOL. 40

発行/株式会社 田中家石材
住所/彦根市高宮町1-0-1
電話/0740(2)50000

HP: <http://www.tanakaya-sekizai.com/>
Mail: info@tanakaya-sekizai.com

謹賀新年

一年の始めであるお正月は春の始まり、すなわち「立春」とも考えられており、人々は春の訪れがもたらす生命の誕生を心から喜びました。「めでたい」という言葉は「芽出度い」と表し、「新しい春を迎え芽が出る」という意味があります。

お正月というのは、日本で最も古い年中行事の一つだと云われています。起源について詳しくは分かっていませんが、仏教伝来以前より「お正月」は存在していたようです。

そして、仏教伝来まで、「お正月」は「お盆」の半年後にやってくる、先祖祀りをする行事でした。仏教の影響が強くなるにつれて、「お盆」は仏教行事の盂蘭盆会と融合して先祖供養の行事となり、「お正月」は歳神様を迎えて、その年の豊作を祈る「神祀り」として区別されるようになりました。

お墓の石

お墓に使う石材というのは、採掘山から初めて世に出る石、初めて空気に触れる石を墓石に加工していきます。採掘山によっては、地下十メートル近く掘り進んでおり、危険とも隣り合わせです。



お地蔵さんには、家の玄関や庭におられるお地蔵さんとお墓におられるお地蔵さんがあります。それぞれお役目があり、家のお地蔵さんは生きています。お墓のお地蔵さんは亡くなられた子供を導き守ってくださると云われています。最近、家の建て替えや売却をされる方から、お地蔵さんをどうさ

掃苔



後述で福沢諭吉の言葉を紹介しますが、著名人の墓石の苔を掃って、墓石に刻まれた文字を読み解き、生き様や生前に残したことに思いを馳せることを「掃苔」といいます。昨今では、「墓マイラー」と呼称されています。

年の無事を感謝し、また一年が無事であるよう手を合わせます。帰りには、お墓参りをされ、こうして家族みんなが無事でお正月を迎えることができました。と墓前に報告をしましょう。新春らしい晴れやかな気持ちになります。子供達には幼い頃から、感謝をしながら手を合わせることを習慣化させておくと、きつと思いやりのある人に育つでしょう。

お正月も、お盆と同じくご先祖をお迎えます。

お墓参りをしましょう。お供えの花はお生花に、お正月ですので、吉祥の象徴である松竹梅と一緒にお供えすることも良いのではないのでしょうか。

また、お線香には、周りを清める意味とお供物の意味があります。折角ですので、少し香りの良いお線香にしてみることも良いかと思えます。ご先祖を大切に思っている気持ち、お供えに乗せた心と、お線香の良い香りを通して、きつとご先祖に伝わっていることでしょうか。

崩して、やつと採掘した原石も石種によって、その十、三十数パーセントしか墓石に使えません。このように厳しい過程を経て、みなさんの先祖墓石として、供養塔として生まれ変わっています。そんな墓石、供養塔だからこそ、皆様に大切にしていただきたいと思います。

せてもらったら良いのかとご相談をよくいただきます。基本的には建て替えられても売却されても、続けてお祀りされる方が良いと思います。どうしても続けられない場合は、きちんとお祀りしていただける寺院等にお預けされることをお勧めしています。その場合も弊社にご相談いただければ寺院をご紹介しますことができます。

ご自身の為にも、粗末にだけはなさらないようにして下さい。墓もあれば、ひっそりと質素なお墓があったり、デザイン性の高い個性豊かなつくりのお墓があったりと意

外な発見があります。著名人のお墓に限らず、ご先祖が眠るお墓は、私達の一番身近であり、頼れる心の拠り所であると思います。

お正月は、家族が集う時でもあります。子供や孫、その先の子孫の為に、心の拠り所であるお墓のことを話してみませんか。

お仏壇、お墓に六つの気を

この世を去って、あの世に住む御先祖の食事は「気」と云われています。その「気」には六つあり、「六種供養」といいます。

一つは、きれいな水の精気。二つは、新鮮な花の生気。三つは、焚きたてのご飯やお茶の湯気。四つは、線香の香気。

五つは、手の平に塗るお香の塗香。六つは、ろうそくの光気です。お参りされる折は、できればこれだけのお供えを用意したいものです。(宗派によって異なります。)

最近、お墓で造花を見かけることが多くなりました。見た目には綺麗ですが、造花はプラスチックで作られており、花の香りはもとより「生きた気」をお供えしたことにほならないと思えます。お供えする仏花は飾りではありません。

お寺のなまは？

近年、核家族化が進み、故郷を離れて遠方に住まれる方が増えました。それに伴って、故郷でのお寺さんとお付き合いが疎遠になってしまい、仏事の際に「旦那寺がない」とお困りになられる方も増えているのが実情です。

直接お寺さんに仏事をお願いをしても、紹介でないと難しいことがあります。弊社でもこの様なご相談を、年に何件か受けます。その際は宗派に合わせて、お寺さんをご紹介します。



一年の「計」は元旦にあり

福沢諭吉の言葉を紹介いたします。「計」の参考にして下さい。

人はこうあれ

先祖を敬い、年忌法事をわすれるな
神仏をいたわり、年寄りをいたわり、子供に優しく
家業に励み、他人を羨むな
金は稼いでから使え、腹八分目、何事もほどほどに
天災はいつか来る、覚悟をしておけ
人の苦勞は見ずに助け、義理・人情を忘れるな
自然の恵みを粗末にするな。

子どもに手を合わす姿を見せる

私が思うことは、祖父母、両親が普段から手を合わせる姿をみている子ども達は、自然と手を合わせる習慣が身についています。同時に「合掌」という所作は、感謝と敬意を伝える作法と云われているので、手を合わせる習慣のある子供とそうでない子供では、これから成長する過程に於いて、差が出てくると思います。

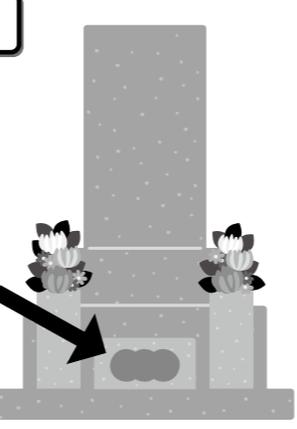
先祖の力で少し勇気をもらえるかも知れません。何より、やさしさと思いやりのある人に育つと確信しています。是非、家族、お子様もいっしょにお墓参りをしてください。

数年前から週刊誌や報道で「墓じまい」という言葉が作られ、お墓を無くすことが現代の潮流のように報じられてきました。しかし、近年のコロナ禍では、お墓をしまう方と建てる方の二極化になっていくようにみえます。

まずは次の世代に繋いでみてはいかがでしょう。

ワンポイントアドバイス

Q お骨は、お墓のどこに納骨をするのですか？



A 明治、昭和の初め頃に建てられたお墓は、後方を開けて納骨をします。近年に建てられたお墓は、前置き石(家紋や〇〇家と彫られている)を動かし、下に土が敷かれている空間がでてきますのでその上にお骨を納めます。

※墓石のサイズにより置りますが、前置き石は約20〜40kgと重たいので、決してご無理なさらぬようにして下さい。